

地域の防災対策

自助・共助・公助の連携

自らの生命は
自らが守る

自助

- 家具等の転倒・落下・移動防止対策を行う。
- 防火対策器具(消火器・住宅用火災警報器等)を備える。
- 避難グッズを準備する。

共助

自分たちのまちは
自分たちで守る

- 区、自治会等で防災訓練を実施し地域の防災力向上を図る。
- 地域に住む要配慮者を支援するための協力体制をつくる。

連携

公助

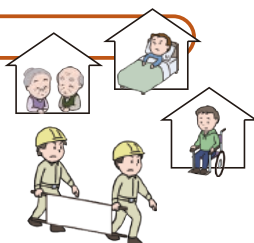
行政機関等が守る

- 各関係機関が連携した災害対応力の充実強化を図る。
- 自助、共助に対する支援を行う。

要配慮者のために

災害のとき援護が必要な人に優しく接しよう

突然起きる災害のときに、大きな被害を受けやすいのは要配慮者と呼ばれる人たちです。要配慮者とは、高齢者や子ども、障がいのある人、妊産婦、乳幼児、外国人など配慮が必要な人たちのことです。いざというときは地域の人みんなで協力して要配慮者を支援しましょう。



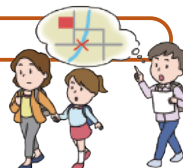
高齢者・病人

あらかじめ支援者を決め、2人以上で対応し、車いすや担架を使うほか緊急時は背負って避難します。



要配慮者になったつもりで防災環境の点検を

目や耳の不自由な人や外国人に向けた警報・避難方法が正しく伝えられるのか、放置自転車などの障害物は無いかなど、日ごろからの点検が大切です。



目の不自由な人

まずは声をかけ、誘導するときは腕を貸してゆっくりと歩きます。できるだけ状況を言葉にして伝えましょう。



避難するときはしっかり誘導する

一人の避難行動要支援者*に複数の住民が支援していくなど、具体的な救援体制を決めておきましょう。隣近所での助け合いがとても大切です。

*要配慮者のうち、避難する際に特に支援が必要な方を避難行動要支援者といいます。



耳の不自由な人

お互いに顔が向き合う形で、大きく口を動かし話しかけます。伝わりにくい場合は、身ぶり・筆談で伝えます。



困ったときこそ温かい気持ちで

非常時こそ、不安な状況に置かれている人に優しく接することが必要です。困っている人や要配慮者には思いやりの心を持って支援しましょう。



車いす利用者

階段では2人以上で援助し、昇りは前向き、降り後は後ろ向きに移動します。1人の時は背負って避難します。



日ごろから積極的なコミュニケーションをとりましょう

災害のときに円滑な支援活動をするために、日ごろからコミュニケーションをとっていることがとても大切です。



旅行者・外国人

孤立させないように話しかけます。通じない場合は、やさしい日本語や身ぶり手ぶりで伝え、道順などは手で方向を示します。

